

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500060
法人名	社会福祉法人エンゼル
事業所名	グループホームエンゼルなかがわら
所在地	愛媛県伊予郡松前町中川原168番地1(電話)089-984-7666
自己評価作成日	平成26年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者を自分の家族と同じように温かく接し、喜怒哀楽を共に味わえるよう日々の生活を援助している。利用者は自分で出来ることを確認し料理・掃除・洗濯など家事全般を職員とともにやっている。職員は常に話し合い、利用者本位での支援・寄り添ったケア・グループホーム独自の理念に沿った援助を行うよう心がけ、様々な習慣・行事を計画・実施している。90代から60代までの18名が一緒に生活することで教え学んだり、価値観・生活歴の違う方々を受け入れ理解しようとする姿が見られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所で仕事をしているとっておられる利用者があり、夜間、落ち着かない様子の時には、事業所内の夜間見回りをお願いされ、役目を終えると安心してご自分の居室に戻れるようだ。献立にお刺身がある日には、ご本人の希望を聞いて、少し晩酌できるよう用意されている。又、夜間、眠れない様子の時には、ノンアルコールビールとおつまみを用意されると、安眠につながるようだ。天井には、新年に皆で書いた絵馬が吊り下げてあり、中には「おいしいものがいっぱい食べられますように」と書いてあるものもあった。 今年度の春より、法人の理事が全事業所を回っておられ、利用者とお話したり、レクリエーションに参加されたり、時には食事介助等されることもある。職員は、備品の購入から事業所で困っていること等、何でも相談されており、現場の声がより早く法人に届くようになったようだ。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームエンゼルなかがわら

(ユニット名) ひまわりユニット

記入者(管理者)

氏名 中矢 康子

評価完了日

平成26年1月5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家族や地域の方々との連携を深められるようホーム独自の理念を掲げ、入居者の状態に合わせた援助を行っている。理念を基にユニット会・全体職員会(月2回)等にて話し合いを持ち、援助に努めている。 (外部評価) 事業所理念を「ひとりひとり、その人らしく、笑顔で楽しく」と掲げ、皆の目に留まるよう、各ユニットの共用空間に掲示しておられる。職員会や研修会で理念について話し合う機会を設けられたり、あらたに理念への理解について、アンケート形式で職員に問うような機会も作られた。管理者は、アンケートをもとにして、目標を立て理念の実践につなげていきたいと話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホーム独自のパンフレットを作成し見学の方々・申し込み者に配布している。また地区の祭りや行事に参加し少しずつ地域の方々と交流を図っている。 (外部評価) 事業所の周辺を散歩する際には、畑で農作業中の地域の方と挨拶を交わしたり、声をかけるようにされている。公民館の生きがいサロンに出かけて、ゲームに参加することもある。地区の文化祭や運動会に出かけたり、春・秋祭りには、神輿や獅子舞が来てくれ、利用者は見学等して楽しまれている。事業所のある中川原地区にあるひよこたん池公園は、季節毎に花を楽しめる公園で、地域の方とふれあえる散歩コースとなっている。又、公園では、お祭りもあり、利用者は出店を回ったり、村芝居一座の「義農作兵衛」等を観劇して楽しまれた。職場体験活動で中学生の訪問があり、折り紙や神経衰弱等のゲームをして過ごされ、利用者は孫とふれ合うように交流を喜ばれたようだ。	今後も、様々な形で地域の方達に事業所を知っていただく機会をつくり、利用者が地域に出かけたり、事業所が地域にできることを探りながら、地域とのおつきあいを深めていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) スタッフ会・運営推進会議などを通して地域の役員・町の担当者と話し合い、交流が図れるような場を設けるよう話し合いを進めているが、まだ実行には至っていない。「認知症キャラバン・メイト」の講習を受け地域での講習を開催することで地域福祉の拠点となるよう計画している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に一度開催している。事業所での取組み・テーマについて話し合いを実施し、各担当者・利用者・家族の要望、意見を聞いている。また家族・担当者からの意見を職員間で共有しサービスの向上に繋げていけるよう話し合い・実行している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議では毎回、利用者の暮らしについて現状報告を行い、事業所で決めたテーマに沿って意見交換をされている。今年度は、「脱水症について」、「虐待防止に向けての取組み・研修報告」、「避難訓練について」等について意見交換が行われた。「地域との関わりについて」意見交換された際には、参加者からの意見等をいただき、「自主防災訓練をきっかけに、地域とのつながりを深めていく」ことにまとまったようだ。地域包括支援センターの担当者からは、地域とのつなぎ役として、区長、民生委員と協力関係を持ちながら話をすすめてはどうか、とアドバイスをいただいた。管理者は今後、事業所がテーマを挙げるだけでなく、フリートークから出された「現在、困っていること」や、「外部講師を招き講習会」等も行い、参加者が興味を持って参加してくれるような会議にしていきたいと話しておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度介護相談員の方が2名来所し、1時間ほど利用者・職員と交流を図っている。またグループホームの行事・施設全体行事にも来所して頂き、普段の利用者の姿を見ていただけよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの声かけで、町内の3グループホームが3ヶ月ごとに集まり、互いの事業所を見学したり、意見交換する機会が作られている。今年度、運営推進会議のすすめ方について意見交換された際には、他事業所の取組みもお聞きして、テーマの挙げ方の工夫を採り入れたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、廃止委員会を月に1度開催し、職員の意識向上を施設全体で取り組んでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>夜間眠れず居間を歩く方には、ご本人が眠くなるまで見守られたり、ひとりで出かける方には、お好みに歩いてもらい、職員は、ご本人が疲れてきた様子がみられた時に声をかけて、事業所に戻れるよう支援されている。建物の2F全体が事業所のフロアで、1Fにはデイサービスと受付があることから、受付に利用者の顔写真や情報を常備し、建物から出ようとする利用者が見かけられた際には、連携できるようにしておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会・法人全体の会議等で虐待の有無についての報告を行っている。松前町主催の高齢者虐待防止関連法についての勉強会に参加し、制度への理解を深めるよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内掲示板に資料や相談窓口を掲示しているが、入居時等ご本人及び家族等に対する説明が十分に行えておらず、制度の活用推進ができていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項説明を十分に行い、家族・利用者と共に納得のいくまで話し合いを実施している。退所時には家族・利用者・その他の関係者と十分に話し合いバック体制を整え、介護添書の作成・援助計画書の添付などを行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームエレベーター前に苦情受付箱を設置し、月に一度介護相談員の方々に報告している。苦情が寄せられた場合はマニュアルに沿って速やかに対応・回答を行う。法人全体としても要望・苦情解決委員会を開催し、頂いた要望・苦情が反映できるようにしている。 (外部評価) 毎月、各ユニット毎に便りをつくっておられ、利用者個別に写真を載せてご家族に送付されている。各ユニットの居間には、職員の名前や顔写真を掲示した「職員紹介コーナー」を設け、利用者やご家族に職員を知ってもらえるようにされている。年1回「家族交流会」を行っておられ、カラオケ大会やクイズを楽しみながら、ご家族同士が交流された。利用者も一緒に楽しまれ、調査訪問時には「久しぶりに家族と一緒に話したんよ」と利用者がその時の様子を話してくださった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			法人側、かつ管理者との話し合いの場を持ち検討している。自己申告書の活用・スタッフ会での要望・提案について書類を提出後、職員との話し合い検討・実施している。	
			(外部評価)	
			今年度の春より、法人の理事が全事業所を回っておられ、利用者とお話したり、レクリエーションに参加されたり、時には食事介助等されることもある。職員は、備品の購入から事業所で困っていること等、何でも相談されており、現場の声がより早く法人に届くようになったようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者はホームを訪問しては、職員に声掛けを実施し日々の業務についての報告を聞いている。年2回の自己申告書等により本人の希望・実績・個々の努力について把握している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修に参加する機会を設け、職員を段階に応じて資格が確保できるよう援助し、個々のスキルアップに繋げている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			市町村の開催する研修にできる限り参加している。管理者は「グループホーム管理者交流会」などに参加し、他グループホーム管理者との交流を図っている。職員はグループホーム相互研修に申込み、職員の派遣・受け入れについて話し合いを進め実施している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所申込時、家庭への訪問を行い、本人とゆっくり話す機会を設けている。体験入所などを実施し、会話や行動より悩み・不安などをくみ取る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家庭への訪問・事業所への訪問時家族が困っていること・求めていることを聞き出し、受け入れられるよう対策を検討している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・家族に最も必要なことを見極め、事業所全体・他業種の方々の意見を仰ぎ、幅広い視野から対応を検討していくよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理作りを一緒にしたり、行事の作法等についての助言を頂いたりすることで喜怒哀楽を共にしている。利用者に温かく接し、学んだり支えあったりしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の暮らしや生き方を理解・尊重することで、家族と情報を共有し、信頼関係を築いていく。行事等には職員と一緒に参加して頂き、喜怒哀楽を共にし、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。年に一度家族交流会を開催し、家族・職員・利用者の関係を築いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切に交流する機会を多く持つようにしている。馴染みの方々との連絡・交流が切れないように通信・手紙などを活用している。	
			(外部評価) 利用者のご主人が来られた時には、居室に案内して、お二人で過ごす時間を作れるよう配慮されている。「家に帰りたい」と言われる利用者には、買い物に誘って気分転換できるよう支援されたり、ご自宅近くまで車でドライブされると気持ちが落ち着かれるようだ。利用者の気持ちをご家族と共有して、いつ電話しても受け入れてもらえるようになっているケースもある。他地区にある法人施設の喫茶コーナーに行ったり、フリーマーケットや夏祭り・納涼祭、敬寿会(敬老会)、餅つき等、様々な行事に参加して交流されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で話し合えるような話題を提供したり、料理や行事への参加を促している。常に見守りを行い、トラブルになりそうな場合は、職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同施設の他事業所を利用される方には、定期的に訪問し、親しい関係を維持できるように努めている。他施設・家庭に戻られる方には家族・利用者が孤立せず、様々なサービスが受けられるよう情報の提供を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の障害が進むにつれて変化があり、本人の意向が把握出来難いこともある。職員が利用者と深く係わることで、利用者の意向をくみ取れるように努めている。また家族交流会で利用者の状態を説明し、家族・利用者の意向を話し合う機会を設けている。 (外部評価) 入居前の情報に、日頃のケアやご家族の来訪時に得られた情報を追加し、一年ごとに更新されている。事業所で仕事をしていると思っておられる利用者があり、夜間、落ち着かない様子の時には、事業所内の夜間見回りをお願いされ、役目を終えると安心してご自分の居室に戻られるようだ。献立にお刺身がある日には、ご本人の希望を聞いて、少し晩酌できるよう用意されている。又、夜間、眠れない様子の時には、ノンアルコールビールとおつまみを用意されると、安眠につながるようだ。天井には、新年に皆で書いた絵馬が吊り下げられており、中には「おいしいものがいっぱい食べられますように」と書いてあるものもあった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や家族面会時・職員との談話の中で、生活歴・馴染みの暮らし方について話を伺っている。また現状調査をファイルにすることで職員全員が把握でき、いつでも閲覧できるようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者と関わる中で、生活リズム・心身状態の把握・「出来ること、出来そうなこと」の把握に努め、職員全員が情報を共有するよう連絡ノートの活用、スタッフ会での話し合いを進めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。月に1度のスタッフ会で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。</p> <p>(外部評価) ご家族が訪問された機会を捉えて、意見や要望を聞き取っておられる。入居期間の長い利用者のご家族の中には、ご本人とご家族、そして職員も一緒に居室でゆっくりお話することで希望等を聞くことができるようだ。転倒や筋力低下が心配なご家族もあり、事業所から訪問マッサージや訪問リハビリを提案して、計画に採り入れているケースもある。居間で皆とおしゃべりするのが好きな方や、晩酌が楽しみな方、手芸をしたり、絵を書くことが楽しい方等、ご自宅と同じように楽しみながら生活することを続けられるような計画作成に努めておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別にファイルを作成し、日中は黒、夜間帯は赤で記録し誰が見ても分かりやすいように日々の現状を記録している。また連絡ノートを活用したり、口頭での申し送りを徹底し情報伝達が確実に実行できるようにしている。介護計画については、毎月1回のスタッフ会にて確認・評価を行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度開催している運営推進会議に参加していただいている。また医療保険を使用して「療養マッサージ」「訪問リハビリ」等利用者の身体状況の改善に努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎月介護相談員の来所・消防訓練等を実施している。また学生やその他ボランティア等の受け入れ、近隣の幼稚園・小、中学校などとの交流を行うことで広がりのある生活が出来るよう計画している。現在北伊予中学3年生との交流が図られている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に入居者・家族等の希望を聞いている。契約しているかかりつけ医院と電話やメールで相談が出来るようになっている。また必要時には往診も可能である。	
			(外部評価) 協力医は、2週間毎に往診して下さっている。入居前からのかかりつけ医を利用する方は、ご家族が付き添うようになっている。歯科、耳鼻科は、随時職員が同行し受診しておられる。眼科の往診を受けている方もある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤の看護職員2名と連携を取りながら利用者の健康状態について支援している。夜間の急変についても2名の看護職員が対応している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時にはこまめに病院(担当医)や家族と連絡を取り、早期退院のための話し合いや協力を行っている。利用者が安心して病院で過ごせるよう頻回にお見舞いに伺い、精神的安静が図れるよう努めている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の今後の重度化・終末期の在り方について、家族・利用者の意向をお聞きし文書にて確認した。かかりつけ医とも話し合いを行い、グループホームとしての指針を決定した。マニュアルも作成し職員の情報共有に努めている。	
			(外部評価) かかりつけ医と話し合いを行い、「看とり介護に関する指針」を作成しておられる。入居時には、指針をもとに説明を行い、利用者、ご家族の意向を聞いておられる。現在は、「最期までここで」という方がほとんどで、2名の方は病院を希望しておられるようだ。事業所では、最期まで支援する体制を整えておられるが、状態変化に応じて、ご本人やご家族の気持ちが揺らぐことも多く、管理者は、「状況に応じてそれぞれの気持ちを汲み取りながら支援していきたい」と考えておられる。ご家族にも協力が得られるような場合には、側で付き添えるよう、簡易ベッドを用意したり、食事等も用意して、ご家族の疲れにも配慮しながら支援したいと考えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命救急講習を母体施設と共に職場内研修にて実施している。勉強会も不定期ではあるが職員会で実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人として半年に1度消防署による日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。(H25年11月30日伊予消防署・地域の消防団の方々を迎え、夜間想定の実施済)地域の消防団との協力が得られた。今後は地域との連携を図り、施設が災害時の地域の拠点となる様話し合いを進めていく。独自の災害マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 11月に消防立会の避難訓練を実施された。今回は、来年度の新任区長の声かけにより、自主防災組織、消防署、中川原消防団の協力を得ることとなったが、初めての試みでもあり、事業所内を案内して避難経路、非常口、利用者の概要等の説明をされた。当日は、夜間の火災を想定して非常階段やスロープからの避難誘導を訓練された。布団を使って全利用者を避難させたが、「夏布団の方が滑りが良く運びやすかった」、「利用者が寝ている方が運びやすかった」等がわかったようだ。避難確認のために、居室の表札を利用者に持ってもらうことも決められた。建物内にあるデイサービスと合同で、日中の火災を想定した避難訓練も実施された。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重・威厳が守れるように配慮し、温かくゆっくりとした口調で声掛けするようにしている。居室に入る際には必ずノックを行い、本人の了解を得てから入室するようにしている。記録に関しては個人名を記載したりせず、プライバシーに配慮している。	
			(外部評価) 管理者は、職員が利用者に声かけする際には、片ひざを付いたり横に座ったり、目線を合わせて声かけするように話しておられる。普段の生活の中では、お客様として接するのではなく、互いが笑ったり泣いたり、時には喧嘩したり、感情が自然に表現でき、気持ちが共有できるような支援に努めておられる。時に職員の声が大きかったり、命令口調に聞こえるようなことがあれば、管理者がその場で注意したり、職員同士が伝え合うようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において自己決定を尊重しており、本人の希望や意見を取り入れている。声掛けも決めつけるようなことをせず、利用者に納得・決定していただくようにしている。障害が進むにつれ、入居者自身が選ぶことが日常的に少なくなっている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ヶ月の行事・1日の大まかな日課は決まっているが、毎朝の健康状態を把握したり、本人の希望を聞くことで外出などを適宜行えるような体制をとっている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と相談し定期的に美容院を利用している。毎朝モーニングケアを実施し、清潔保持に努めている。衣類は本人と一緒に確認しながら選び、季節に応じた身だしなみ・おしゃれができるようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者とともに買い物・献立作成・調理を出来る限り行っている。入居者・家族の意見を参考にし、好物の料理・誕生日料理・季節の行事食等の調理を行っている。会話や音楽を取り入れ楽しい時間を過ごしていただいている。	
			(外部評価) 米と肉は地元の専門業者から配達してもらっている。利用者は特にお刺身が大好きで、魚屋から厳選された美味しいお刺身が届くのを楽しみにする方もおられる。調査訪問日のカレーに入っている肉は、利用者の状態によって小さく切って食べやすくされていた。食が進まない利用者に職員は、「これは利用者の方が刻んでくれた人参ですよ。食べてみますか？」と声をかけながら介助されていた。ユニットによっては、利用者から「今日はお好み焼きが食べたい」との声があったようで、献立を変更して、利用者と職員と一緒に好み焼きをつくっておられた。行事時等には、バイキング形式で好きなものを選んで食べるような機会をつくらせたり、「ごちそう日」を設けて、てんぷらうどんやステーキを焼いて食事を楽しまれており、お肉を好まない方もたくさん召し上がったようだ。庭の畑で芋掘りをして蒸し芋にしたり、移動バン屋のパンでおやつを楽しんだり、毎日のおやつも利用者の楽しみとなっている。食器は、食材の色が分かりやすい色の食器を組み合わせたり、陶器の器の重みで安定感を持たせ、食べやすくするような工夫もされている。利用者は、食材の下ごしらえや簡単な調理、台拭き、おしぼりたたみ、下膳等、できることにかかわれるよう支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや食事を把握し、食事摂取量・水分摂取量のチェック表を活用しながら十分な栄養・水分がとれるよう配慮している。その日の健康状態・摂取状況に応じて食事形態などを工夫し支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い見守り・介助している。就寝時には義歯の洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄リズムを把握し活用している。他利用者に配慮しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないようにしている。 (外部評価) 排泄チェック表にて、個々の排泄のタイミングを図りながら、トイレ誘導して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排便を確認している。排便がない場合は水分摂取・ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取・散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤などを主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お湯を沸かし、健康状態に異常のない方は入浴できるようにしている。マンツーマン入浴を行い、入浴剤の使用や季節浴(ゆず・菖蒲など)を行っている。夜間入浴を現時点で希望される方はいないが、職員の勤務時間体制を整え、対応できるようにしている。 (外部評価) 利用者それぞれの希望をお聞きしながら、週3回入浴できるよう支援されている。浴槽が深めであることから、底にすのこを敷き高さを調節したり、浴槽の縁の高さに合わせた手製の台を置いて、またいで入りやすいように工夫されている。入浴を拒む方もいるが、時間をずらしたり、職員が替わって声かけしたり、お気に入りの職員が声をかけることでスムーズに入浴につながることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者全員ほぼ良眠している。夜間眠れない方には日中居室で休息していただいたり、その方に合わせた生活時間(食事・入浴)を過ごしていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬表を作成し、ファイルすることで職員全員が把握できるようにしている。服薬時には本人確認・薬の裏の名前確認を行い、誤飲がないようにしている。薬はスタッフルームにて保管・管理している。利用者の症状の変化については、かかりつけ医の支持を仰ぎ、服薬支援を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族・ご本人より趣味・生活歴などを聞き、楽しみごと、気晴らしができるよう個別に支援している。料理や花、野菜の栽培・水やりなど一人ひとりに役割を持っていただき、張り合いのある日々を送れるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天候を考慮しながら園庭、近隣への散歩を実施している。買い物の同行など個々の希望に応じた外出を行っている。日常の会話の中で個々の希望を聞き出し、ドライブや外食など要望に応じた計画・実施ができています。	
			(外部評価) 車イスを使用する利用者も多数おられ、併設のデイが休みの日に車数台を借りて、数名ずつ出かけられるよう支援されている。季節に応じて、桜、紫陽花、向日葵、ツツジ、菊等、お花を見にドライブに出かけることも多い。それぞれユニット毎に「月に2回の買い物外出」、「月に1回のお菓子の日」と目標を決めて楽しみ作りを支援しておられ、大型ショッピングセンターに買い物に出かけ、駄菓子屋コーナーで昔懐かしいおやつを買ったり、ドーナツを食べに出かけることもある。	車の手配等、外出することへの制限もある中で、支援を工夫しておられるが、今後は、「ひとりひとり、その人らしく、笑顔で楽しく」の理念のもと、利用者やご家族から、外出支援について希望等を探るような取り組みをすすめ、外出支援に工夫を重ねていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設の方針として預り金等の現金を扱わないようにしている。家族の同意のもと小銭入れに少量の現金を持たれたり、買い物時や商品納入時にお釣りの計算をしていただいたりしてお金の大切さを理解していただいている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の返事などは援助を最低限に抑えて出来る限り本人に行って頂くようにしている。はがきや封書など必要物品は利用者とともに用意するよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者が集まるホール、廊下にソファを用意し、好きなところでテレビを見たり話ができるように配置している。冷暖房等の温度調整・カーテンの開閉による日差しの調整を行っている。季節行事にかかわる作品を展示したりして生活感・季節感を取り入れている。トイレ等の混乱を招かないよう様々な言葉での表記を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の転倒が増えていることから、居間のダイニングテーブル、ソファ、テレビ等の位置を替え、どの場所からでも職員と利用者の目が合うようなレイアウトにされた。職員が台所においても、利用者の動きが分かりやすくコミュニケーションを取りやすくなり、転倒することが減ったようだ。居間には、ご家族からいただいたフランス人形や利用者が入居前から大切にしている日本人形が飾ってあったり、利用者がお好きな昔懐かしい俳優の写真をポスター状に大きくプリントしたのもも貼ってあった。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホール内・廊下にソファ・丸テーブルを配置し、利用者同士・家族との談話が持てる居場所を確保している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた生活用品を自由に持ち込んで頂き家庭的な雰囲気作りを心掛けている。また写真や趣味の物を飾ることで心地よく過ごしていただけるよう援助している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、利用者の姓名を毛筆で書いた木製の手作り表札をかけておられた。ご自分の居室が分からなくなる利用者には、大きく名前を書いて表示しておられる。転倒が心配される利用者の居室は、床にマットを置き布団を敷いて対応されていた。手芸が得意な利用者は、リリアンを編む用具を揃えておられたり、大切にしているアクセサリーを置いている方もみられた。愛読書を持ち込まれたり、お孫さんからのお手紙、法人の敬老会の賞状を壁に飾っている方もおられた。以前、絵画の先生をされていた方は、ご家族がスケッチブックや色鉛筆を用意していただき、ぬり絵等をされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活歴を把握し、利用者ができること・得意なことを行って頂き、自信を高めるよう努めている。トイレ・お風呂など明確に掲示し、混乱を招かないよう配慮している。ベランダ・他事業所への入り口を開閉し自由に出入りできるようにしたり、手すり・安全な家具の配置を検討したりして自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	